

1-4 混合ペレット肥料の製造、広域流通の実証

(JA鹿児島県経済連)

鹿児島県

2023年6月時点

家畜ふん

ペレット・BB

広域流通

- JA鹿児島県経済連は、肥料メーカーと連携し、堆肥ペレット（牛ふん、豚ふん、鶏ふん）を原料とした混合ペレット肥料（リッチシリーズ）を開発し、2022年7月から販売開始。また、同経済連とJA全農みやぎは、堆肥ペレットと稲わらの広域流通の実証試験を2023年2月から実施。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称

・牛ふん、豚ふん、
鶏ふん堆肥

・指定混合肥料
・リッチシリーズ（17銘柄）
「ミドリッチ1号、2号」「アグリッチ」他

■作物

・茶
・園芸作物
など

■主成分の含有量/保証成分量（%）、特徴等

銘柄	N	P	K	苦土
ミドリッチ1号	8	4	1	4
ミドリッチ2号	8	2.5	0.8	3.5
アグリッチ	8	8	8	3

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

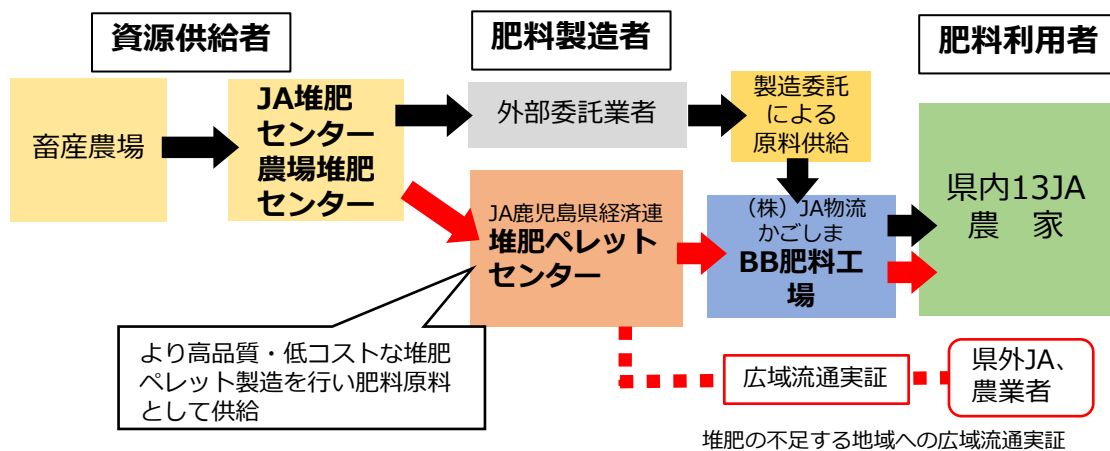
取組の経緯

- ・2021年10月に「耕畜連携プロジェクト」を立ち上げ、耕種部門と畜産部門の連携した取組を推進。この取組の一つとして、JA鹿児島県経済連では、畜産堆肥を活用した低コスト肥料（堆肥と化学肥料を混合した肥料）の開発に着手。
- ・その後の国際情勢の変化を受け、化学肥料の原料価格が高騰していることから開発を急ぎ、2022年7月1日から供給を開始。

取組の内容

- ・開発した低コスト肥料は、茶栽培向けの「ミドリッチ茶1号、2号」で、いずれも堆肥ペレットを10%配合。1号は堆肥と窒素吸収を高める肥料を配合した機能的な肥料で、20キロ袋で2022年秋肥の類似肥料と比べ価格を約15%抑制。2号は堆肥と苦土石灰による土づくりを可能にした肥料で、同21%抑制。
- ・園芸用「アグリッチ」は、堆肥を30%配合し、窒素、リン酸、カリ、苦土石灰と混ぜて粒状化。価格は同30%抑制。粒状化したことで散布が容易となり、作業負担を軽減。現在、17銘柄のリッチシリーズを販売中。
- ・同経済連とJA全農みやぎは、堆肥ペレットと稲わらの広域流通の実証試験を2023年2月から実施。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

（課題）

- ・低コスト化
- ・農家への定着・普及

（取組）

- ・各作物に適した品目拡大、肥料効果の確認
- ・堆肥入り肥料の増産対策
- ・分離しないペレットの開発（粒径を小さく）
- ・配合率アップの検討

